

# マスキングテープがつなぐ病院・地域・企業 —ホスピタルアートの新たなかたち—



communart  
depuis 2022

永廣 佳 (特定非営利活動法人コミュニティ理事)

永廣 信治 (同法人理事長, 吉野川病院院長, 脳神経外科専門医)

# 1 背景

## ホスピタルアートの現状と課題

- ◆導入形態
  - 壁画・建築デザイン・絵画（版画・素描）展示が主（ほかにデジタルアート、オブジェ等）
  - ⇒新築・改築時にほぼ限定、メンテナンス・変更なし
- ◆担い手
  - 美術・建築デザイン系大学の教員と学生が主（NPO法人等の団体、企業も存在）
  - ⇒素人（病院利用者・職員）、プロの介在なし
- ◆費用
  - 不十分で不安定な財源

## 大学×企業CSR×アーティスト連携による「ひびきあうハート」

- Tokudai Hospital Art Labo：マスキングテープを用いて徳島県内の医療機関にホスピタルアート制作 ※THALは発表者が主宰。2018年から継続的に活動。
- BNPパリバ・グループのCSR活動：助成金+社員ボランティアによる制作参加（オンラインワークショップ）
- プロのアーティスト西村公一氏：デザイン立案、制作監修・指導（オンライン）

### 徳島赤十字病院に制作、東京都企業ボランティアアワード受賞



徳島大学とBNPパリバGをつないでオンラインWS。社員は家族と自宅から参加。

オンラインWSで制作した小ハートを組み合わせて現地で制作。アーティストはオンラインで指導。

徳島赤十字病院エントランスロビーのエレベーター裏。220枚の小さなハートを組み合わせて高さ110cm、長さ650cmの作品を制作。（2021年9月）

# 2 事例1 愛染橋病院（大阪市）のホスピタルアート —地元企業ボランティアとの連携—

## 課題

- ◆職員の一体感の養成（チーム医療の向上）
- ◆小児科外来の待ち時間を楽しく過ごしてもらう
  - ※コロナ禍によるプレイルームの閉鎖
- ◆産科外来の待ち時間を快適にする



- ◆職員・外来患者・家族と一緒に取り組めるマスキングテープアートの導入
- ◆近隣企業（永和信用金庫）の職員ボランティアによる制作協力、地元慈善団体（大阪キワニスクラブ）による支援

## 愛染橋病院での制作 小児科と産婦人科の外来にマスキングテープで季節毎の壁画装飾を行う



(上)クリスマス装飾、2021年11-12月。ツリーやソックスの低い部分を空けておき、外来に来る子どもたちに埋めてもらった。最後に病院職員に作ってもらったオーナメントを飾り付けた。

(下)花火、2022年8月。別室の机上で夜空柄のマスキングシートの上に花火を作り、壁に貼り合わせた。

# 3 事例2 熊本大学病院（熊本市）の「ひびきあうハート Kumamoto 2022」

## 課題

- ◆大規模な急性期病院で無機質
- ◆心安らぐ空間がない
  - ※コロナ禍によるギャラリーの運用停止



- ◆アーティストの監修により地元学生（熊本大学、熊本駅前看護リハビリテーション学院）、企業ボランティア（BNPパリバG）、一般市民で作る大規模なマスキングテープアートを導入
- ◆制作費用は企業CSR（BNPパリバG）、熊大医学部同窓会（杏龍会）による支援、病院に感謝を届けたい個人による寄附で賄う。

## STEP 2 対面ワークショップ@熊本駅前アミュひろば（2022年10月「くま博」にて）



熊本駅前アミュひろばで開催された「くま博」で対面WSを実施。2日間でのべ335名の市民が参加、370枚あまりのハートが完成。制作したハートはボードに貼り付けられ、イベント会場に飾られた（終了後に回収）。会場運営には熊本駅前リハ学院と熊大の学生、熊大病院職員、当法人会員知人らがあたった。

## STEP 3 熊本大学病院での制作（2022年11月）



STEP1,2の他、当法人会員や知人らが制作したものも含め937枚の小ハートを組み合わせたの制作となった。熊本のシンボルである熊本城、武者返しの石垣、五輪書をイメージした作品を、外来棟と検査スペースをつなぐエスカレータ側面と2階廊下に3日間で制作。現地ではアーティストの監修の下、学生と病院職員、会員知人らのべ30名ほどで制作にあたった。

## STEP 1 オンラインワークショップ（2022年9月）



徳島と旭川（アーティストの拠点）をつなぎ、小ハート作りをオンラインで指導。関東からBNPパリバG職員88名と、熊本から熊本駅前リハ学院と熊大医学の学生100名あまりが参加。400枚弱のハートが完成。

# 4 展望

## 「外部」の協力による新たなホスピタルアートを可能にするマスキングテープ

- ◆いつでもどこにでも導入可能
  - 既存の病院、営業時間中でも制作可能
  - 制作過程を病院利用者・職員と共有できる
- ◆病院外からも制作に参加可能
  - 院外（オンラインでも可能）で簡単にパーツを準備できるため、さまざまな協力者が得られる
  - ※作品の質を高めるためにはプロの介在が望ましい

## ◆新たな「社会貢献」の提案

- ・個人に対して：病院の恩恵を受けている人が気持ちよく感謝を伝えられる方法
- ・企業に対して：ボランティアやCSRのプログラムとして、社員が楽しみながら参加できる方法

## ➡資金やマンパワー不足を解決する鍵に



## 病院と地域・社会をつなぐ手段として

病院を社会に開き、社会のさまざまな個人・団体が病院を支える相互関係の構築を可能にするホスピタルアート

筆頭演者、共同演者において、開示すべき利益相反（COI）はありません。